

2日目（中学生の活動）

被災現場の活動に参加できない中学生は、午前中はスコップなどの活動に必要な道具などを保管しているテントにブルーシートで開け閉めができる幕を張る作業をしました。如何にして開け閉めをスムーズにするか、みんなでアイデアを出し合いながら完成させました。

午後は、ボランティアを終えて戻って来られた方に、塩飴や梅干しなどを配ったり募金活動をしたりと、元気一杯に活動してくれました。特に募金活動においては、中学生の呼び掛ける声のおかげでいつもよりかなり多く集まったと聞いています。



3日目（中学生の活動）

最終日もボランティアセンター内での活動となりましたが、前日のミーティングで、「現地での活動だけがボランティアではない。」という事を自覚してくれたのか、現地に向かうボランティアの方の見送りからパワー全開。塩飴や梅干しを配ったり飲料水を配ったりと大活躍でした。ひと段落すると、体育館裏のペットボトル飲料を保管しているエリアにテントの設営。体育祭での準備作業が活きてきた感じでした。

昼食後は、無造作に積み上げられたペットボトル飲料を、経口補水液、スポーツドリンク、水に分類し取り出しやすいように積み直す作業を、力仕事に飢えていた生徒たちは、更に張り切っていました。

その作業を終えると、前日同様、活動を終えたボランティアのかたの出迎えで、塩飴や梅干しなど配布するチームと募金を呼び掛けるチーム、更にボランティアの方の手に消毒液を散布するチームに分かれ、帰阪するギリギリまで声を枯らせて頑張ってくれました。

中学生が体験した今回の3日間の裏方としてのボランティア活動は、本当に貴重なものでした。3日間の中での成長も感じられましたし、この先の人生において大きな意味を持つ経験になったことは間違いありません。

